

# 土木学会四国支部「土木紀行」No.6(高知県)

## 「中筋川ダム」

中筋川ダム周辺の地図を図-1に示す。中筋川は一級河川である四万十川の一次支川であり、その流域は宿毛市、四万十市、三原村に渡っている。中筋川ダムは、水道、灌漑、工業用水を確保・供給する多目的ダムという機能のほかに、地域の生活・文化・レクリエーション施設づくりという面で、地域文化交流の場としての役割を担っている。その仕様は、提高 73.1m、提頂



図-1 高知県宿毛市中筋川ダム周辺の地図

長 217.5m、有効貯水量は 1200 万  $m^3$ 、湛水面積は 70.0ha に及ぶ<sup>1)</sup>。

中筋川流域はその全体が台風襲撃地帯であるため、ダム建設が行われるまでは洪水によって多くの被害を受けていた。昭和初期に至るまでは堤防の設置も行われておらず、本格的に治水事業が開始されたのは昭和 4 年のことだった。中筋川ダムの建設は昭和 58 年に着手され、平成 10 年度に完成、平成 11 年 4 月より運用されている。平成 16 年までに、17 回の洪水調節を行っており、地域の水害防止に大きく貢献している<sup>2)</sup>。

中筋川ダムの前景を写真-1 に示す。中筋川ダムは、地元住民や観光客から親しみの持てる地域のシンボルとしての役割を得るため、自然との調和を図ったデザインを取り入れている。その最大の特徴は、提体下流面を階段状にしたところにある。75cm・85 段に及ぶ段差は景観面だけでなく、越流の勢いも緩和する機能を持つ。また、落ち着き



写真-1 中筋川ダム前景



写真-2 ダム天端からの風景

のある左右対称のデザイン、高欄照明を用いた天端なども中筋川ダムの景観的特徴である。平成 13 年には土木学会デザイン賞優秀賞を受賞している<sup>1)</sup>。

ダム天端からの風景を写真-2 に示す。写真中央にある噴水は、ダム内のプランクトンの発生を抑えるために定期的に行われるもので、最大高さは 50m にまで及ぶ。また、中筋川ダムには展示室が隣接しており、中筋川周辺で撮影された野鳥の写真やダム建設の経緯や過程を見学することができる。

平成 19 年 8 月 16 日に現地を訪れた。我々の生活の中でダムを直接見る機会は少ないが、いざ目の当たりにするとその圧倒的なスケールに感動させられた。運用が始まって 10 年にも至っていない中筋川ダムだが、その優れたデザイン性や恵まれた自然環境から、地域住民の文化交流施設や旅行者の観光スポットとして今後の展望が期待されている。

(高知高専専攻科建設工学 2 年 田原 実)

#### 参考文献

1) 中筋川ダムホームページ :

<http://www.skr.mlit.go.jp/nakasuji/nakasujidam/index.html>

2) 洪水調節のしくみとその効果 :

<http://www.skr.mlit.go.jp/nakasuji/sikumikouka/index.html>